

問 多古米の増産に向けてあらゆる手段を尽くすべしでは

答 国の方針を注視しつつ、町農業の持続的発展を目指します

町の「コメ生産の実態は
どう変化しているか

問 町の「コメ生産の実態について
お示しください。

町長 主食用米については、令和7年度は47・8ヘクタール増加し、1197ヘクタールです。飼料米は令和4年度から令和6年度までに30ヘクタール減少し、令和7年度はさらに17・7ヘクタール減少する予定で、約11・7ヘクタールとなります。WCSは令和7年度の予定では13・5ヘクタール減少し、55・5ヘクタールとなります。休耕田の面積は2022年度が168ヘクタール、2024年度は225ヘクタールと増加しています。稲作の単一経営体数は2010年が701件、2020年が452件と減少が続いています。

問 生産者数も水田面積も減少している中で、増産体制に切り替えるのはかなり大変だと思いますが町の方針をお示しください。

産業経済課長 今後の国の施策を注視しつつも、町としては生産者の確保と水田

の確保、そして生産効率のアップが必須になると考えています。人の確保については新規就農や親元就農、第三者承継など後継者の確保支援。水田の確保については、現在4地区で具体的に動き始めている基盤整備事業により効率的に生産ができる基盤を作っていくことと、さらに個人あるいは集落単位で小規模な土地改良を行う場合には町の独自施策である農地基盤整備事業補助金制度もあります。この補助制度は暗きょ排水や水路の整備、あぜの除去、畑地でのかんがい設備などにも利用可能です。ぜひ、活用して生産拡大に生かしていただければと思います。また、生産効率のアップには、アグリテックなどのスマート農業技術を取り入れていくことも必要と考えています。

問 さらに今、大きな課題になっているのがコメの価格問題です。コメの適正価格はいくらなのかという論議が盛んに行われています。本来であればコメの価格はまず、コメの再生産が可能な生産者米価が保証され、それに流通コストがプラスされて消費者米価が決定される。

菅澤 博隆 議員



それが適正価格であるべきだと思います。そのバランスが崩れる時は国が介入し、生産者、消費者双方が納得できる価格を設定する。それが主食のコメを安定供給し続ける最も重要な政策だと思いますが、担当課としてのお考えをお示しください。

また、その際重要な点は当町におけるコメの生産原価ですが、どのように算出していますか。

産業経済課長

まずは生産者の確保が第一原則で、かつ再生産可能な対価が得られる仕組みが必要と思っています。その上で、価格の安定に資する各種施策や、消費者が納得して購入できるような施策も必要であると思います。地域の農業者と近い位置にいる者の意見としては、食品の生産から消費までの一連の流れの中で、生産者という地位をきちんと位置づけていただいて、その方々にきちんと対価が支払われることが必要だと思います。

問 NAAが設置している歴史伝承委員会の活動の進捗状況は

答 移転対象地域の記録保存のため撮影などを行い、その成果として企画展示を行っています

移転対象地域における文化・歴史の保存の進捗状況は

問 一鍛田地区の文化や歴史を、町はどのように残すのか伺います。

町長 NAA歴史伝承委員会内の運営検討部会調査会では、空港用地となる一鍛田地区を含めた五つの地区で、失われる原風景および地域の祭事などを記録・保存するため、撮影事業を行っています。撮影した成果については、成田空港空と大地の歴史館において企画展示を行っており、今後の撮影成果についても歴史館での展示などの活用を予定しているとのこと。



企画展示などには地元の施設が必要

問 3年前に一般質問をした際、NAA歴史伝承委員会を設置していますとの回答でしたが、その時は歴史伝承委員会とのかかわりを持っていなかったということでしょうか。

空港地域振興室長

町全体として、かわりがないまま、当時は地域にお住まいの方が参加していただきました。現在、その方の参加はなく、令和6年4月からは町行政が委員会に参加しています。

問 NAA歴史伝承委員会の方は各地区の原風景や祭りの様子を撮影するため、空港用地となる各地区に入られているのでしょうか。

空港地域振興室長

歴史伝承委員会内の運営検討部会調査会には、歴史の専門家も委嘱されており、その方々が地域に入っています。また、NAAは撮影記録を業者に委託しており、委託を受けた業者も地域に入っているという状況です。

問 一鍛田集落の写真集を作成するとお聞きましたが、詳しく

高坂 恭子 議員



生涯学習課長

一鍛田区長より、移転を余儀なくされる地域の記録を残したいとの要望があり、記録集として写真集の作成を計画しております。写真家の齊藤小弥太氏に写真の提供・製本を依頼し、年度内に刊行予定です。移転地区の記録を後世に残し、移転先でも誇りをもって郷土を紹介することができるようにと考え作成するものです。

問 北総地域資料・文化財保存ネットワークについて町は構成員になっていないとのことですが、その組織の方が地域に入りやすい環境を作っていましたか。

生涯学習課長

現在も職員が地域と組織をつなぐパイプ役を担っています。

問 移転者だけでなく、町民や地域にかかわる人たちのため、地元資料の保存・展示のため、地元



多古米の今後は

また、コメの生産原価については、国の農産物生産費統計で見れば、令和5年は60キロ玄米1万5948円と算出されています。この生産費は年々上昇していますので赤字体質のままでは生産は続けられません。町内における生産原価の把握については、規模の差があることから難しい統計になると思いますが、おおむねの生産費を把握することは検討したいと思っています。

●建設残土埋め立て地の諸課題
そのほかの質疑応答

に収蔵庫・資料館が必要かと思います。

町長 一鍛田の皆様方のお気持ちに込めるため、NAAに対しては、取得された一鍛田地区の土地に必ず空港施設を建てていただきたいと強く要望してまいりました。その結果、貨物の物流施設が整備されることになりました。また、価値ある文化財や人々が生活をした証を残すことは大変重要であると認識しております。保存・展示については研究を深めていきたいと思っています。



空港用地となる一鍛田地域